

2019年入試予測【神奈川県 男女校】

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
横浜富士見丘学園	横浜市	女子校だったが男子募集を開始する。ホームルームは男女別に編成される予定で、別学に近い内容。入試の設定では、2月1日午後に算数のみの入試も選択できるようになるほかは、あまり変わらない。模試では希望者が増えているが、女子は難化するほどではなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。男子は女子よりもやや緩和した難度になるかもしれない。
中大附属横浜	横浜市	入試の変更点はなし。模試では男女とも希望者が増えている、附属校人気を表れている。特に2月1日午前の1回は学力上位の希望者の増加が目立つ。1回の不合格者は2日午後の2回に流れるので、1・2回ともやや難化すると考えておいた方が良い。
日本大学	横浜市	適性検査型を2月5日午前から1日午後に動かしてA2回と並行実施とするほか、英語選択を2月1日午前から午後に移行するなどの変更がある。模試では希望者数に目立った変化は見られない。2019年から日出が目黒日大となるが、日吉の日本大学を高い志望順位、目黒日大はその押さえとして考えている受験生が多いようで、日吉の日本大学の希望者にはあまり影響が出ていない。各回次とも2018年並みの難度になりそう。
神奈川大附属	横浜市	入試の変更点はなし。模試では希望者が増えている、学力上位の希望者の増加も見られる。地域的に桐蔭学園との併願受験生も多いので、各回次とも少し難化するかもしれない、とっておいた方が良い。
森村学園	横浜市	変更は、帰国生入試の日程を前倒しにするのみ。模試での希望者数に目立った動きはないが、桐蔭学園との併願受験生が多く、3回の入試ともやや難化するかもしれない。
桐蔭学園	横浜市	男子部中等、男子部従来型、女子部理数、女子部従来型の別学体制を取りやめ、共学の中等教育学校となる。地域の中学入試情勢に大きな影響を与える変更。各回次合計の募集定員は530名から210名に一気に削減され、入試回数も帰国生を含めて6回が5回に減る。教育内容も、「徹底して大学受験を目指した進学校」から、「大学受験を前提としつつ、21世紀型教育を全面に打ち出した内容」に変化する。こうした変化を歓迎する受験生が多いようで、模試では希望者が増えている、特に学力上位の女子の関心の高さがうかがえる。同校によると、説明会の参加者が増えているだけでなく、予約者の欠席がかなり減っているとのこと。難化必至の要警戒校と言える。
横浜翠陵	横浜市	2月1日午前と2日午前で英語選択の入試を新設するが、受験生は少数になりそう。模試では希望者数の目立った動きはなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
公文国際	横浜市	入試の変更点はなし。模試では2月1日午前のAを中心に、希望者が少し増えている。Aの不合格者は3日のBに流れるので、ABとも少し難化する可能性がある。

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
山手学院	横浜市	入試の変更点はなし。桐蔭学園が2月1日午後入試を廃止したことから、模試では1日午後のA2回次を中心に希望者が増えている。入試直前の受験生の動き次第では、他の回次も応募者が増える可能性はあり、各回次とも少し難化するかもしれない。注意した方がよさそう。
関東学院	横浜市	変更は、帰国生入試の日程を曜日の関係で繰り下げるのみ。模試では2月3日午前の一般Cで高学力の希望者が少し増えているが、他校併願の受験生が中心。各回次とも2018年とあまり変わらない難度になりそう。
関東学院六浦	横浜市	適性検査対応の総合入試を2月1日午前に、英語入試を2日午後、プレゼン型の自己アピール入試を4日午前に、それぞれ既存の入試と並行実施で新設。こうした新設入試を受けて希望者が少し増えている模試も見られるが、既存の各回次も含めて難化することは考えにくく、2018年並みの難度が続きそう。
横浜隼人	横浜市	2月2日午後自己アピール入試を新設、6日午前入試を7日午後移動する。模試の希望者数に目立った変化はなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
鶴見大附属	横浜市	入試の変更点はなし。希望者が少し増えている模試もあるが、難度に影響するほどではなく、各回次とも2018年並みの難度が続きそう。
横浜創英	横浜市	2月1日午前に適性検査型入試を新設、1日午後入試を取りやめて6日午前に2科入試を新設。模試では希望者数の目立った動きはなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
橘学苑	横浜市	2月4日午前入試を午後移動して4科か2科+英語の選択したり、7日入試を新設する。模試の希望者数に目立った変化はなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
横浜サイエンスフロンティア(公立中高一貫校)	横浜市	入試の変更点はなし。学力上位の男子受験生の人気が上がっている。2019年も高難度の入試が続きそう。
市立南(公立中高一貫校)	横浜市	入試の変更点はなし。人気に目立った変化は見られず、2018年並みの難度が続きそう。
横浜国大横浜(国立)	横浜市	入試の変更点はなし。模試での中堅の学力層の希望者が増えてきた。女子も増えているが、男子の方が増加幅が大きい。入試までこの人気が続くのかは何とも言えないが、やや難化するかもしれないと思って準備した方がよい。
青山学院横浜英和	横浜市	2018年に共学化した学校。各回次の定員配分を修正するが、入試情勢に大きな影響はない。模試では希望者が増えている。中堅の学力層の受験生が多いが、2月2日午後Bと3日午後Cは学力上位の希望者も目立つ。1日午前Aは、2018年並みの難度か、場合によっては少し上がるかもしれない。BとCは少し難化しそう。

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
法政第二	川崎市	帰国生の入試日程を曜日に合わせて変更するのみ。模試では男女とも希望者が増加傾向で、学力上位の希望者も増えている。2月2日の1回、4日の2回ともやや難化する可能性がある。
桐光学園	川崎市	各入試回次の定員配分を見直すが目立った変更ではない。模試では希望者が増えている。地域的に桐蔭学園との併願受験生も多いので、各回次とも少し難化するかもしれない、と思っておいた方がよい。
大西学園	川崎市	初めての午後入試を2月1日午後に新設し、3日午前の入試を取りやめる。模試では希望者数の目立った動きはなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
市立川崎 (公立中高一貫校)	川崎市	入試の変更点はなし。人気に目立った変化は見られず、2018年並みの難度が続きそう。
横浜国大鎌倉	鎌倉市	入試の変更点はなし。模試での中堅の学力層の希望者が増えてきた。女子も増えているが、男子の方が増加幅が大きい。入試までこの人気が続くのかは何とも言えないが、やや難化するかもしれないと思って準備した方がよい。
東海大相模	相模原市	入試の変更点はなし。模試では女子の希望者がやや増えているが、難化するほどではなさそう。各回次とも2018年並みの難度が続きそう。
相模原中等 (公立中高一貫校)	相模原市	女子の人気が上昇傾向。少し難化するかもしれない。
自修館	伊勢原市	2月1日午前で適性検査型の探究型入試を新設するほか、5日にも2科入試を新設。模試では希望者数の目立った動きはなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
慶應湘南藤沢	藤沢市	地域トップ校。2019年から4科の他に2科+英語も選択できるようになり、公開されているサンプル問題では、かなり高度な英語力を求める内容になっている。また、横浜初等部の1期生の多くが内部進学してくることから、一般募集は定員が120名から70名に削減される。模試での希望者数に目立った動きはないが、定員削減の影響で応募者が増えなくても厳しい入試になるのは明らか。すでに高難度だが、2019年はいつもに増して厳しい入試が展開しそう。要警戒校。
日大藤沢	藤沢市	入試の変更点はなし。模試では、中堅の学力層の女子の希望者が少し増えているが、目立って難化するほどではなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
湘南学園	藤沢市	2月1日午前に記述・論述型のESD入試を新設、その関係で各回次の募集定員の配付戦を一部変更する。模試では希望者が少し増えている。桐蔭学園の影響が出ていて、1日午後は学力上位の希望者がやや増えているが、難度を押し上げるところまでは行かず、各回次とも難度は2018年並みか、上がったも小幅にとどまると思われる。

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
横須賀学院	横須賀市	帰国生入試の日程を変更するのみ。希望者が少し増えている模試もあるが、難度に影響するほどではなく、各回次とも2018年並みの難度が続くそう。
アレセア湘南	茅ヶ崎市	2月2日午前に面接重視のポテンシャル入試を新設。模試の希望者数に目立った変化はなく、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
相洋	小田原市	入試の変更点はなし。小規模な入試の学校。人気に特に変化は見られず、各回次とも2018年とあまり変わらない難度になりそう。
平塚中等(公立中高一貫校)	平塚市	入試の変更点はなし。中堅の学力層の女子の人気が高くなっている。このまま推移すると、やや難化するかもしれない。